



### 北区こぼれ話 第126回

## ほさか おおいのすけ 保坂大炊介って誰?! おおいのすけ ざか ～大炊介坂の話～



本郷通りに沿って滝野川会館から霜降銀座商店街方面へと下る坂を大炊介坂といいます。東京都が建てた坂道の案内板には「この辺りに住んでいた中世の武将保坂大炊介にちなんで大炊介坂と呼ばれている」と記してありますが、「北区の部屋」には幾度となく「保坂大炊介って誰?!」といった質問が寄せられます。そこで今回はこの保坂大炊介について、普段、私が行っている回答を紹介します。

そもそも、大炊介坂については文政年間(1818～30)に編さんされた官撰地誌『新編武蔵風土記稿』に記されており、そこには「保坂大炊介ト云モノ住セン地ト云」とあります。それゆえに冒頭に示したような説明がなされるのですが、大炊介については続きの記述があり「有徳院殿此辺御放鷹ノ時、文右衛門ガ家ニ御立寄有テ大炊ガ事蹟ヲ御尋アリシニ、此頃ハヤ詳ナラザル由」と記されています。八代將軍徳川吉宗が鷹狩でこの地を訪れた際、西ヶ原村名主文右衛門に大炊介について尋ねたのですがすでにその詳細は不明であった、ということです。この点から考えますと大炊介という人物は少なくとも近世

初期もしくはそれ以前に当地に居住していた者であったことがうかがわれます（なお、屋敷地の場所については不明です）。

官途を名乗っていることから江戸時代の旗本とされている方もいらっしゃるようですが、西ヶ原村名主家および年寄家と同じ保坂姓を名乗っており、保坂大炊介は中世の在地土豪であった可能性が考えられます。豊臣政権期から徳川政権初期にかけて行われた検地を媒介に、地域の在地土豪層の多くは、武家の家臣に取り立てられるか、百姓身分となって在地の有力農民となるかいずれかの道をたどりしました（兵農分離）。保坂氏の場合は農民身分として西ヶ原村に残る道を選択したものと推測されます。

なお、こうした在地の土豪がなぜ大炊介という官途を名乗ったかについてですが、中世には「官途成」という成年儀礼があり、土豪や有力農民の子弟は成人になると「隼人」とか「将監」といった官途を名乗る儀式を行いました。もちろん、この官途は朝廷から認められた正式なものではないので、保坂氏も「大炊介」を私称しただけだと思われます。

基本的には以上のような説明になるのですが、「結局、この大炊介は誰か、江戸時代にはすでにわからなくなっていたんですよ。」との結論を聞いて、質問をされた方は「ああ、そうなんだ」といってお帰りになられます。質問者は結論だけを知りたいのかも知れませんが、「北区の部屋」ではわからないまでも、結構、いろいろ調べて回答しています。【地域資料専門員 保垣孝幸】

※大炊は、宮中の供物や宴席を管理する役職です。



大炊介坂

## 北区の部屋 今月の展示

**もう一つの赤レンガ  
遺構** に見に **いこう!**  
一十条駐屯地公開緑地のみどころ



**期 間:** 1月5日(日)~1月22日(水)

**場 所:** 北区の部屋「企画展示コーナー」

◆中央図書館の斜め前にある公開緑地の **赤レンガモニュメント254号棟** について「北区の部屋」の壁面展示で詳しくご紹介します。

## 渋沢栄一コーナー作りました♪

このたび、「北区の部屋」の一区画に『**渋沢栄一関連書籍コーナー**』を開設いたしました!

北区に縁の深い渋沢栄一翁は、令和6年に一新する一万円札の肖像画や、NHK大河ドラマの主演に決定したこともあり、北区では公民連携による「東京北区渋沢栄一プロジェクト」が始動しました。図書館でも、このプロジェクトの一環として広く渋沢翁を区民に紹介し、「渋沢の街・北区」の機運を高めて行きたいと思います。皆様、この機会にぜひ渋沢翁の偉業が綴られた数々の書籍をご覧ください。



◆『渋沢栄一コーナー』新設により、『内田康夫著・浅見光彦コーナー』を1階1番区(「北区の部屋」入口出てすぐ正面)に移設しました。

## 歴史講演会のご案内

### 地域が支えた村の教育力

▶企画・運営: 北区図書館活動区民の会・地域資料部



幕末に来航した外国人が驚いた日本人の識字率。それを可能にしたのが寺子屋であり、村が支えた明治時代の学校でした。こうした地域の教育力について専門家がわかりやすく紹介します。



【対 象】中学生以上の方

【日 時】令和2年2月8日(土) 午後2~4時

【場 所】北区立中央図書館 3階ホール

【講 師】学習院女子大学 くどうこうへい 工藤航平氏

【定 員】50名(抽選)

【申込方法】往復はがきで、1月24日(金)(必着)まで

※視覚・聴覚障害のある方は電話・ファクスでのお申し込み可。

※手話通訳が必要な方は要事前連絡。

【申込・問合せ先】〒114-0033 北区十条台1-2-5

北区立中央図書館図書係 TEL:5993-1125 FAX:5993-1044



寺子屋師匠の顕彰碑  
(赤羽 法真寺)



## 北区こぼれ話



### 第127回



# 正月の雑煮を男性がつくるといふ習俗

-女性に休んでもらうため？  
それとも神事だから？-



2月ですが、お正月の話をしてします。旧暦で言えば、令和2年（2020）1月25日が、元日となります（中華圏では春節）。お正月の話でも、あながち季節はずれではないでしょう。

毎年、元日（新暦）にお雑煮を食べるという方が多いと思います。そのお雑煮は、女性がつくりませんか、それとも男性がつくりませんか。かつて、北区域では、男性が雑煮をつくるという家が少なくなかったようです。「北区の部屋」で公開されている『高木助一郎日記』にも、その様子が記述されています。明治43年（1910）元日の個所には「井戸にて初水を汲みて顔を洗ひて家に至りて雑煮を造る」とあります。明治45年（1912）の元日にも「五時起床、若水を汲みて顔を洗ひ家に入り諸神に供物を供へ其より雑煮を作り一家目出度く食事を終り」とあります。中十条の高木家において、元日における男性の役割は、井戸から新年最初の水を汲むこと、そして神棚に餅をお供えすること、そして雑煮を作ることでした。

では、ほかの地域ではどうだったのでしょうか。『北区史』民俗編1から3によれば、区内の様々な地域において、男性が雑煮を作るという習慣が確認されています。また、こうした風習は全国各地で見られます。普段、忙しい女性に正月くらいは休んでもらうという理由で、雑煮づくりは男性の役割なのだという解釈が、現代では広くなされているようです。

しかし、もっと宗教的な意味を含んでいるケースも散見されます。例えば、赤羽北（かつての袋）のある家では「正月の三日間は男は焙烙で餅を焼いた。女はお膳や雑煮を作るのはかまわれないが、餅を焼いてはならないとされた」とあります。女性が餅を焼くことを禁忌としているのです。志茂のある家では、男性が雑煮を神棚に供えるという風習がありました。正月の神事に関わるのは男性の役割という意識のなかで、若水を汲むのも、神棚にお供えをするのも男性によっておこなわれました。同様に、雑煮を作るのも、神事であるから男性の役割とされたとの解釈が可能です。

そもそも、餅はハレの日の食事で、霊妙な力が宿っているという考え方があり、雑煮は神饌の一つと考えられています（『民俗学辞典』柳田國男監修東京堂出版）。餅を神に供え、人もまた餅を雑煮として食べるということです（『日本民俗事典』大塚民俗学会編弘文堂）。つまり「神人共食」というわけです。男性が雑煮を作るのは神事だからであり、女性に休んでもらうためというのは後から考えられた解釈ということになります。

現在では、そのような意識が薄まり、むしろ女性が雑煮を作るという家庭も多くなっているでしょう。いずれにせよ、令和時代の家庭では、男女が共に協力し合って、楽しく一年を過ごすことが一番と言えるでしょう。

【地域資料専門員 黒川徳男】

## 北区の部屋 今月の展示

テーマ：<sup>おわりやばん</sup>尾張屋板「<sup>そめいおうじすがもあたりえず</sup>染井王子巢鴨辺絵図」を読む  
期 間：1月24日（金）～2月26日（水）  
場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー



江戸時代から明治時代にかけて、一定の区画で区切って作成された地図（切絵図）が数多く出版されました。今回の展示では最も普及したとされる<sup>えぞうし</sup>絵草紙屋<sup>やおわりやせいしち</sup>尾張屋清七が出版した切絵図のうち、北区域が描かれている「染井王子巢鴨辺絵図」を詳しく見ていきたいと思ひます。



### 小学生向けワークショップ 「親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー」 開催しました！

北区図書館活動区民の会地域資料部企画・運営



1月12日（日）「親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー」を開催しました。連休にもかかわらず、たくさんの応募をいただきありがとうございました。「ポンコ・ツーリスト」の保垣社員企画のナイトツアー。18組46名の親子が参加されました。同社精鋭の添乗員たちの案内で好評のうちに終わりました。普段皆さんが入れない閉架書庫で、びっくりの体験をしたり、暗い図書館で何かの模型に夢中になっている職員がいたり。ツアー中いろいろなところで図書館の秘密に迫るヒントをもらいながら、謎解きをしました。参加者の皆さんからは、「ワクワクした！」「図書館の裏側が見られてよかった」「誰もいない図書館を見られてよかった」などの感想があり、楽しんでいただけたようでした。



## 第二回 公開歴史講座

「江戸時代の住民台帳  
『<sup>しやうもんになべつあらためちやう</sup>宗門人別改帳』から当時の人々の暮らしをみる」

講 師：<sup>ほがきたかゆき</sup>日本近世史研究家 保垣孝幸氏

日 時：3月14日（土）14時～16時

場 所：中央図書館3階ホール

定 員：50名（応募者多数の場合抽選）

対 象：中学生以上の方

申し込み方法：往復はがきの往信用裏面に講演名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用表面に申込者の住所

氏名を記入してください。2月25日（火）（必着）＊視覚・聴覚障害のある方は電話・ファクスでお申込みいただけます。＊手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。申込・問合せ先 〒114-0033 北区十条台1-2-5 中央図書館図書係 TEL (5993) 1125/FAX (5993) 1044

## 新進気鋭 北区在住の高校生作家

<sup>すずき</sup>鈴木るりかさん 現役中学生作家として『さよなら、田中さん』でデビュー、2作目『14歳、明日の時間割』を刊行し、高校生作家となって『太陽はひとりぼっち』を発行。小学館主催「12歳の文学賞」大賞3年連続受賞。

<sup>よこやまれい</sup>横山黎さん 応募作『秘密を夜に閉じこめて』第17回 北区内田康夫ミステリー文学賞・奨励賞受賞

お二人の著書・サイン・サイン本を「1番区」  
地域資料・特別コレクションコーナーに展示しています。





### 北区こぼれ話 第128回

## 王子に隕石?!

### ぶこうねんぴょう —「武江年表」の記事をめぐる—



神田雉子橋の町名主だった斎藤月岑が書いた『武江年表』(以下、『年表』と記します)という地誌があります。「武江」とは武蔵国江戸のこと。徳川家康が江戸に入城した天正18年(1590)から明治6年(1873)までの江戸の出来事を編年体でまとめた本ですが、そこに気になる記事がありましたので紹介します。

文政6年(1823)10月8日夜、牛込(現在の新宿区)辺りへ大きさ1間半(約2.7m)ほどの石が落ちたといえます。『年表』では、その日は昼から雷鳴がとどろき、夜に入って「光り物」が通ったと記しているのですが、この1間半の巨石が隕石だとしたならば、牛込界隈を中心に江戸には甚大な被害が出て、跡には巨大なクレーターが出現していたはずですが、このため、この石は隕石ではなかったと考えられますが、実は記述には続きがあり「先年も王子辺へ石落たる事ありといふ」と記されているのです。

「えっ?!王子に隕石?!」

えらいこっちゃと北区の記録をいろいろ調べてみたのですが、それらしい記事は全くありません。江戸時代の表現として、その年より前の年は全て「先年」と書けるので何年前かも定かではありません。とはいえ、そんなに前ではないと思われます。じゃあ、隕石をキーワードに調べてみるか。すると文政6年の6年前、文化14年(1817)に多くの日記や随筆で記されている有名な隕石落下事件がありました。

文化14年11月22日、甲州街道八王子宿周辺に轟音とともに隕石の雨が降り注ぎました。この隕石は落下中に爆発したと考えられており、距離にして10kmほどの範囲に少なくとも10個以上の欠片(かけら)が落ちたといえます。加藤曳尾庵が著した『我衣』には落下の詳細を伝えた書翰が載っており、それによると畑の中に2~3間(約3.6~5.4m)四方の土を跳ね飛ばして窪みを作り、さらに深さ3~4尺(約0.9~1.2m)下に長さ3尺(約90cm)ほどの焼け焦げた細長い石があったと記しています。また、豊田村や平山村(現在の日野市)、柚木村(現在の八王子市)といった近隣の村々にも落ちたといえます。インターネット等で「八王子隕石」と検索すれば、八王子市のホームページをはじめ多くの記事が確認できます。

「えっ?!八王子?!」

現在のところ話はここまでです。八王子の隕石を『年表』が間違っ「王子」と記している可能性が非常に高いと思いますが、文政6年以前の段階で王子に隕石が落下していないと断言できる材料もありません。その意味では、王子に隕石が落下していたのかどうか、よくわからないというのが現状になります。

でも、「王子」と「八王子」って文字だけ見たら似てますよね。

【地域資料専門員 保垣孝幸】



## ◎北区の部屋・特別展示 『地域が支えた村の教育力』

★展示場所：北区の部屋

★展示期間：2月28日(金)  
～3月29日(日)



## ☆歴史講演会を開催しました☆

去る2月8日(土)に、北区立中央図書館で開催されました北区歴史講演会『地域が支えた村の教育力』の講演模様を、企画・運営を担った北区図書館活動区民の会・地域資料部がパネルにまとめました。興味を持たれた方はぜひ見にいらしてください。



### ◆◆◆ 講演の模様は以下のとおりです ◆◆◆

今回の講師、学習院女子大学の工藤航平氏は、日本の教育史が専門です。工藤氏には北区の古文書から作成した資料を使い、明治以降に開校した学校の成り立ち、地域教育体制の確立、学習を媒体とした新たな社会集団への発展、北区域の住民がいかにして教育に向き合ってきたかという4つのテーマを、時系列にお話いただきました。

江戸時代の教育環境とその時代背景について、日本は他国と比べ識字率が高いと言われます。それは戦のない平和な時代の到来で、文書を使った行政システムや記録、情報発信が発展し、読み書きする機会が増えたからとのこと。江戸時代に義務教育制度はありませんが、親は子どもに生きていくために必要な知識をいろいろと学ばせました。その

頃の北区域は農村地帯でしたが、村の子供たち寺子屋で読み書きを学んでいたそうです。



寺子屋から学校に変わったのは、明治政府が明治4年に学校を認可制としてからです。その際に提出された開学願書には、村名、塾主、身分、塾名、所在地、教師給料などが記載されており、工藤氏によれば、これを調べると当時の状況がよくわかるとのこと。また、当時の政府には村の学校まで作る予算はなく、地域住民がお金を出し合って作ったとのこと。自分たちで作った学校だからか、教師が亡くなると門弟の名を刻んだお墓(筆子塚)を建てるほど、教師と生徒の結びつきが強かったそうです。

今回の講演内容が教育という身近な話題だったこともあり、受講された皆さまも終了後にいろいろと質問をしていました。アンケートでも、寺小屋から学校に至る経緯がよくわかった、満足したなどの感想を多くいただきました。



講師：工藤航平氏

## !!! 公開歴史講座 中止のお知らせ !!!

新型コロナウイルスの拡大を受け、下記の公開歴史講座の開催は中止させていただくこととなりました。

★講座名：「江戸時代の住民台帳『宗門人別改帳』から当時の人々の暮らしを見る」

★開催日時：令和2年3月14日(土) 14～16時

★開催場所：中央図書館3階ホール

ご応募いただきました皆さまには、講座中止のお知らせをお送りいたしました。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、ご理解いただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。







# 北区の部屋だより

2020年4月  
第129号



刊行物登録番号31-2-150

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」

〒114-0033十条台1-2-5

TEL03-5993-1125

令和2年4月発行

## 北区こぼれ話 第129回

### 大正12年「社会医学より見たる瀧野川」を読みなおしてみる



令和2年（2020）3月、お客様のいない<sup>がらんどう</sup>伽藍堂となった閲覧室を眺めながらこの文を書いています。新型コロナウイルスの影響で、北区の図書館の利用を、図書の返却と、予約図書の受け取りなどに限らせていただいているためです。

新型コロナウイルスについての一連の報道の中で、スペイン風邪（インフルエンザの一つの型）など、過去の世界的なパンデミックについて言及されることがあります。スペイン風邪が大流行したのは、大正7年（1918）から翌年にかけてです。また、当時は毎年春から夏にかけて、腸チフスがはやっていました。

そのような世相の下、大正12年（1923）に刊行された『文化の瀧野川』（写真）には、小峰茂之博士の論文「社会医学より見たる瀧野川」が掲載されています。当時の瀧野川町について公衆衛生学的な分析がなされていて、興味深いのでご紹介させていただきます。

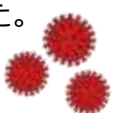
「伝染病」つまり感染症については、腸チフスを中心に分析がなされています。大正9年から11年までの地区別の発生件数について分析されており「本町に於ける腸チフスに就いて見るに、田端最も多く、瀧野川、中里之れに次ぎ、上中里最も其の数少なし」とあります（なぜか、西ヶ原がぬけています）。田端が最も多い理由については「同字は本町内に於て最も早く発展したるを以て、人口多く、排泄物老廃物の除去不十分なるに加へ下水工事の不完全なる為によるものと推測せられる」と、人口増加と衛生設備の未整備を理由にしています。この論文に依れば、腸チフスは、農村から市街化した地域に発生することが多く、そのことは歴史的に見ても明らかな事実であるとのこと。そして「次で瀧野川、西ヶ原、中里の順序に発展したるを以て、如此現象を呈したるものと信ずる」としています。つまり、市街地化の順番が、腸チフス発生数の順位に影響を与えていると言うのです。

ところが、大正12年には、発生件数が逆転します。「昨年迄其の数最も多かりし田端は減少し、未だ発展せざりし上中里に、5月までに14名の発生を見た」とあります。その理由について、小峰博士は「田端の如きは自然に地域免疫をなし、上中里は昨年度より急速に発展したるを以て、自然人の出入頻繁となり、本年度に於ては多数患者を出したるものなりと信ずる」とあります。

ここで、小峰博士が用いている「地域免疫」という言葉は、現在、新型コロナウイルスの報道の中で議論されることがある「集団免疫」という概念と同じと考えられます。ワクチンが無い場合でも、病気が治癒して免疫ができた人や、発症せずに免疫ができた人の割合が、一定数に達すると、流行が終息するという考え方です。

感染症についての解説は「令和も大正も基本的には変わらないのだなあ」と感じました。

【地域資料専門員 黒川徳男】





## 「北区の部屋・今月の展示」

3月の「北区の部屋・今月の展示」は、2月8日（土）に中央図書館にて開催した歴史講演会『地域が支えた村の教育力』の講演模様を北区図書館活動区民の会・地域資料部がパネルにまとめたものをご紹介しますが、コロナウイルス感染拡大防止のため、3月6日から図書館の一部サービス休止によりご覧いただけなくなりました。4月の展示は、通常開館に戻り次第ご覧いただけるよう、引き続き『地域が支えた村の教育力』を展示いたします。

※サービスの一部休止の期間が4月12日まで延長になりました。何卒ご了承ください。

### 講座のご案内

### こもんじょ 古文書入門講座

## 北区の古文書を読んでみよう！！

北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初步の解読を演習形式で行います。

日程：5月8日（金）～6月12日（金）毎週金曜日 全6回 午前10時～12時

場所：中央図書館3階ホール 講師：地域資料専門員 保垣孝幸

定員：25名（抽選） 対象：区内在住・在勤・在学で18歳以上の方

申込方法：往復はがきの往信面に講座名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信面に、申し込む方の住所・氏名を記入して、お送りください。

締切：4月22日（水）必着

申込・問合せ先：〒114-0033 北区十条台1-2-5 中央図書館図書係 ☎ 03-5993-1125



保垣孝幸講師



## 北区の歴史 はじめの一步

### 赤羽東地区編 改訂版 刊行しました！

最初の刊行から10年が経過したため、新しい時代にふさわしい内容となるよう全面的に見直しました。新たな項目を増やし、詳しく地域の歴史を解説。30ページ以上の大増量となっております。また、この本で北区に興味を持った方が、さらに詳しく調べたいと思った時の手助けになるような工夫も施されています。今後、全地区の『はじめの一步』を改訂していく予定です。そのスタートを切った「赤羽東地区編」4月1日より区内図書館で予約貸出を開始するほか、下記にて販売も行います。【書誌番号 3-0003088673】

重版出来！

### 『北区こぼれ話』

品切れとなっていました  
が、増刷しました。  
中央・赤羽・滝野川図書  
館、区政資料室で販売い  
たします。  
価格200円（税込）



### 『北区の歴史 はじめの一步 赤羽東地区編・改訂版』

価 格：400円（税込）

頒布場所：北区役所第一庁舎1階区政資料室・区内一部書店

（中央図書館「北区の部屋」・滝野川図書館・赤羽図書館・飛鳥山博物館では通常のサービスが再開してからの販売となります。）

（詳しくは中央図書館図書係 ☎03-5993-1125）





北区  
こぼれ話  
第130回

## 疫病対策で 外出を自粛する江戸の人々



疫病への恐怖は今も昔も変わりません。

文久2年(1862)の夏、江戸でコレラが大流行しました。江戸時代にコレラが流行したのは西日本を中心に流行した文政5年(1822)、そして、それを遥かに超える規模で流行し、江戸だけでも3万人の死者を出したといわれる安政5年(1858)に続き三度目で、文久2年はさらに数倍の死者を出したという江戸時代最大の流行になりました。『武江年表』はこのときの様子を「銭湯・風呂屋・<sup>かみゆいところ</sup>、更に客なし」「七月九日、十日、浅草寺千日詣参る人も少く、十六日<sup>えんままいり</sup>閻魔参又同じ」と記しています。また、江戸屈指の賑わいを見せていた両国橋界限についても「両国橋畔<sup>ほとり</sup>の夜舗<sup>よみせ</sup>、七月半ばは<sup>とうしよく</sup>燈燭を点ずる事なく、納涼避暑の輩<sup>ともがら</sup>かつてなし」と江戸の人々が外出を控え、街は閑散としていた様子を伝えています。

一方、人々はこうした経験から対処方法を少しずつ積み上げてきているのも事実です。江戸でのコレラ流行をうけ幕府は開成所の医師杉田玄端らに命じてオランダ医師フロインコプスの著書から<sup>はやりやまい</sup>流行病の予防法に関する話を翻訳させた『<sup>えきどく</sup>疫毒予防説』を刊行しました。ここには「キユアランタイネ」(現在の英語の quarantine:

検疫)が“検疫法”と翻訳され紹介されています。この検疫法は流行病が疑われる国からきた船舶および旅客を用心のため入国制限し、特定の建物に一定期間(本では40日間)滞在させるというものでした。その上で貨物および書簡<sup>しよかん</sup>などを「<sup>けむ</sup>煙り以<sup>もつ</sup>て<sup>くん</sup>コレラ燻<sup>くん</sup>ズ」、すなわち消毒するというのです。残念ながら当時の幕府はこれを実施することはできませんでしたが、こうした方法自体はまさに現在の日本政府が行っていた水際対策そのものだといっているかも知れません。さらにこの『疫毒予防説』では室内の換気を良くし身体、衣服を清潔に保つこと、適度に運動するとともに節度ある食生活を心掛けることを推奨しています。外出を控えつつ、換気、清潔を保ち、免疫力の向上に努める。まさに現代に通じる疫病対策の暮らしを江戸時代の人々も実践していたのかも知れません。

今回は、図らずも自宅で過ごすことを強いられている方々も多いかと思いますが、せっかく家にいるのだからと前向きにとらえ、本を通じて昔の様子を調べてみるのも面白いと思います。ちなみに『武江年表』は国立国会図書館のホームページにある「国立国会図書館デジタルコレクション」でも見るができます。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

感染症拡大防止に  
ご協力ください



## \*\*\* イベント開催や北区の部屋・今月の展示について \*\*\*



新型コロナウイルスの影響により、毎年この時期に開催している古文書入門講座は中止となりました。また、2月28日に公開した特別展示『地域が支えた村の教育力』は、図書館が通常開館に戻るまで公開期間を延長いたします。今年度開催予定の事業については、決まり次第随時お知らせしていきます。

## \*\*\* 北区立図書館刊行物のご案内 \*\*\*

北区立図書館作成の刊行物は、区立図書館全15館で貸出できるほか、下記にて販売も行っています。どの本も面白いので、ぜひ読んでみてください♪



### ◆北区の歴史 はじめの一步 (全7地区編) 【定価 310 円】

北区について初めて学ぶ方や子どもたちに、地域への親しみと愛着を持ってもらおうと、北区を7地区(赤羽東・王子東・滝野川東・赤羽西・滝野川西・王子西・浮間)に分け、それぞれの特徴をわかりやすく解説した地域史の入門書です。毎年6～7月頃に、該当地域の区立小学校3年生児童へ配布も行っています。  
※「赤羽東地区編」は、改訂版が刊行されたため廃版となりました。



### ◆北区の歴史 はじめの一步 赤羽東地区編 改訂版 【定価 400 円】

『北区の歴史 はじめの一步 赤羽地区編』刊行から9年が経過し、地域を取り巻く環境も大きく変化してきたため、地域の変化や新たな事実について加筆した改訂版を作成しました。頁数も32頁増と、内容がさらに充実しました。なお、ほかの6地区についても、改訂版を順次刊行予定です。

### ◆北区こぼれ話／北区こぼれ話2 【定価 200 円】

中央図書館月刊広報紙「北区の部屋だより」で連載中の、北区に関する様々な雑学・豆知識を紹介する「北区こぼれ話」をまとめました。当時の連載に追加エピソードや新たに判明した事実などが加筆してあります。各巻50回ずつ掲載しており、今後も50回毎に冊子化していく予定です。



### ◆TOKYO 北区の KITA みち ～目で見える北区の歴史～(日本語版) / TOKYO The Trails of KITA City ～An historical overview of Kita City～(英語翻訳版) 【定価 500 円】

北区の歴史についてわかりやすく紹介する、情報盛りだくさんで写真や図版を多く採り入れた、カラフルで見ているだけでも楽しい北区全域を網羅した歴史本です。北区に住む外国人の方々へも北区を紹介できるよう、英語翻訳版の冊子も併せて作成しました。

※上記刊行物は、中央・滝野川・赤羽図書館3拠点館のほか、北区役所区政資料室(本庁舎1階)、北区飛鳥山博物館(「北区こぼれ話」「北区こぼれ話2」を除く)、下記区内書店でも販売(取り寄せ)しています。

| 図書館刊行物販売書店一覧 (令和2年5月現在) |                                              |   |                                                       |
|-------------------------|----------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------|
|                         |                                              | 3 | ◆ブックスページワン・イトヨカドー赤羽店<br>北区赤羽西1-7-1-6F (☎03-5993-7330) |
| 1                       | ◆ビーブックス<br>北区豊島5-4-1-111 (☎03-3914-1157)     | 4 | ◆文書堂<br>北区赤羽北2-11-18 (☎03-3900-5950)                  |
| 2                       | ◆東武ブックス・ビーンズ赤羽店<br>北区赤羽1-1-1 (☎03-5939-6621) | 5 | ◆フタバ書店<br>北区西ヶ原1-55-12 (☎03-6681-0288)                |